

市制施行25周年

— 栗東市が誕生してから

10月1日で25年が経ちました—

市制施行25周年を迎えて

本市は、本年10月1日に市制施行25周年という大きな節目を迎えました。

今日の発展は、市制施行以来、本市の礎を築いてこられた先人先輩の皆さまをはじめ、市政運営にご理解とご協力をいただいております。関係機関・関係団体の皆さま、そして郷土への誇りと愛着を持ち、「わがまち栗東」を支え育んでこられた市民の皆さまのご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

本市は、豊かな自然と交通の利便性に恵まれ、人と人とのつながりを大切にしながら発展を続けてきました。このまちの魅力は、市民の皆さまが地域を愛し、ともに支え合いながら築き上げてこられた歩みにあります。

一方で、人口構造の変化や物価高騰への対応、自然災害への備えな

ど、地方自治体を取り巻く環境は大きく変化しています。このような時代だからこそ、市民の皆さまとともに力を合わせてまちづくりに取り組みながら、地域の未来とともに築いていくことがより一層重要であると考えております。

市制施行25周年を契機として、これまで受け継がれてきたまちづくりへの思いが次の世代のさらなる発展と希望ある未来につながることを願っております。

栗東市長 竹村 健



未来へつなぐ、市民とともに歩む議会

本市は、市制施行25周年という大きな節目を迎えました。これまで栗東市の歩みを支え、共に歩んでくださった市民の皆さまの深いご理解と温かいご協力に、心より感謝申し上げます。

この四半世紀の間、社会情勢は急速に変化し、現在は多様な課題への対応や持続可能な地域社会の構築など、多くの重要な課題に直面しています。市議会といたしましても、この25周年という歴史的な転換期を契機として、市民の皆さまの多様な声をこれまで以上に真摯に受け止め、議会本来のチェック機能を最大限に発揮し、誰もが健やかに、安心して暮らし続けられる「いつまでも 住み続けたいくなる 安心な元気都市 栗東」の実現に向け、全力を尽くしていく所存です。

これからも市民の皆さまとともに歩み、未来を担う子どもたちへ誇れる栗東市を引き継いでいくため、公正で透明性の高い議会運営に努め、市民の負託に応える議会として、さらなる発展に向けて全力で取り組んでまいりますので、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

栗東市議会議長 川嶋 恵



栗東市のあゆみ

名神高速道路栗東インターチェンジの開設や平成3年のJR栗東駅の開業などを経て、発展を続けてきた栗東市。令和元年には人口7万人を達成し、現在もおおむね7万人規模を維持しています。

平成13年10月1日に県内8番目の市として誕生してから、本年で25周年。豊かな自然と交通の利便性に恵まれたまちとして、市民の皆さんとともに歩みを重ねてきました。

市制施行から現在までの25年間を振り返り、本市の歩みを紹介します。



開市式



③栗東市立地域子育て支援センター大宝東



②第79回国民スポーツ大会レスリング競技会



①移動図書館「みどり号」が16年ぶりに運行再開

問シティブロモーション推進課 秘書広聴係 TEL077-551-0102 FAX077-553-1280

「交通のまち・馬のまち」

「交通の要衝」栗東

近年、県内で多くの道路が供用開始されています。本市周辺の交通環境も大きく変化し、日々の生活の中でそれを実感している人も多いのではないのでしょうか。



国道1号栗東水口道路県道大津能登川長浜線
全線開通(令和7年8月23日)

本市が市制施行25周年という節目を迎えるにあたり、古くから「交通の要衝」として重要な役割を担ってきた栗東の歴史を、改めて振り返ります。

交通の要衝・政治の中心

「岡遺跡が語る古代の栗東」

東西を結ぶ交通の要衝として、古くから主要な道路が整備されてきた近江(滋賀県)。その中でも、東海道と東山道(後の中山道)が通る栗太郡は、特に重要な地域でした。さらに、古代の国の役所(国衙)が瀬田丘陵(大

津市大江付近)に置かれていたことから、栗太郡は政治の中心エリアでもありました。

この栗太郡の役所(郡衙)があった場所が、岡・目川・戸山にまたがる岡遺跡です。昭和61年(1986)からの大規模な発掘調査では、1300年ほど昔の奈良時代の郡衙を示す大型掘立柱建物などの遺構が発見されました。

郡衙の全容がこれほど広範囲に明らかになった例は珍しく、全国から大きな注目を集めました。貴重な遺構は現在、保護のために土を被せた盛土保存が施され、今も農地として活用されながら大切に守られています。



圃場整備前の岡遺跡周辺

花開く街道文化 「立場のにぎわい」



旧和中散本舗(史跡)

今から約400年前の江戸時代初め、全国の街道が整備されました。近江には東海道と中山道の2つの大動脈が通り、豊かな街道文化が花開きました。

東海道と中山道が合流する草津宿(草津市)に隣接し、市内を両街道が通る栗東には、旅人たちの憩いの場である立場(休憩所)が3か所設けられていました。東海道の梅ノ木立場(六地蔵)と目川立場(岡)、中山道の中沢

立場中沢です。

これらの立場では、名薬和中散(梅ノ木立場)や、目川田楽と菜飯(目川立場)といった名物が生まれました。また、中沢立場でも和中散が販売されていたほか、梅ノ木立場と目川立場の中間に位置する手原には、目川田楽と菜飯を販売するすずめ茶屋が置かれていました。これらは旅人に買い求められただけでなく、名所図会(ガイドブック)や浮世絵を通じて紹介され、名物として全国に知れ渡っていたのです。



田楽茶屋ほっこり庵の「ほっこり庵セット」(田楽豆腐と菜飯)



組合立栗東中学校校旗

**街道から鉄道へ
手原駅の開業**

明治時代に
入ると、栗東
周辺の交通
環境は近代化
に向けて大き
く動き出しま
す。明治22年
(1889)、
官設鉄道の東
海道線(現在のJR東海道本線)と、
民間鉄道の関西鉄道(現在のJR草
津線)が相次いで開業しました。しか
し当時、関西鉄道は草津・石部・三雲・
深川(現在の甲南)・柘植の5駅しか
なく、明治45年(1912)に東海道線
の守山駅が開業してからも、栗東の地
には駅がない状態が続いていました。
この状況を打破しようと、大正時
代に入ると、すでに国有化されてい
た草津線の草津・石部間に新駅の設
置を望む声が高まります。大正9年



開業当日の手原駅



名神高速道路栗東インターチェンジ造成の頃
(昭和36年撮影)

**高速道路が拓いた
「馬のまち」への道**

その後の栗東町は、昭和38年
(1963)に名神高速道路栗東イ
ンターチェンジが供用開始されると、
広域交通の要衝として、戦後日本の
高度経済成長を象徴するような劇的
な発展を遂げていきました。

(1920)、治田・金勝・葉山・大宝の
4か村が手を取り合って請願を行い、
大正11年(1922)、ついに手原駅が
開業しました。

この4つの村は、昭和23年
(1948)に組合立栗東中学校を開
校させ、昭和29年(1954)には合
併して栗東町となります。手原駅の
開業は、現在の本市の礎を築く大きな
一歩だったのです。



栗東八景「弘暁(ふつぎょう)の駒音〜早朝の栗東トレーニング・センター〜」

栗東インターチェンジが呼び
水となり、昭和44年(1969)に
はJRA栗東トレーニング・セン
ターが開場します。日本中央競馬会
(JRA)が検討していた競走馬の調
教施設の誘致に、町が名乗りを上げ
たのは昭和38年(1963)のこと。最
終的に栗東が選ばれた最大の決め手
は、開通したばかりの名神高速道路
を使い、各地の競馬場へ迅速かつ安全
に競走馬を運送できる抜群の交通ア
クセスにありました。

これ以後、トレーニング・センタ
ーは栗東に「馬のまち」という新たなイ
メージをもたらし、そのまちづくり
に大きな影響を与えてきました。

**栗東駅開業から
「単独市制施行」、そして未来へ**

国道1号・8号も含めた優れた交
通環境を背景に、工業や商業の集積、
そして住宅地の開発が進んだ栗東
町。平成3年(1991)にはJR東
海道本線の栗東駅が開業し、京阪神
エリアへのアクセスも大きく向上しま
した。このような力強い発展が実を結
び、平成13年(2001)10月1日に
は、全国でも珍しい単独での市制施行
を成し遂げました。



岡地先の環状交差点(ラウンドアバウト)
シンボルマーク

それから25年。私たちのまち栗東
は、交通の要衝としての役割を担いつ
つ、まちづくりを続けています。

図栗東歴史民俗博物館
TEL 077-554-2733
FAX 077-554-2755